

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(下阿多古小学校) 学校運営協議会長

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

2年目を向かえて、学校教育目標を少なからず理解ができ、熟議を重ねることができた。また、その目標が、授業の中に反映されていると感じた。

授業参観にて、子供たちが臆することなく参観者に自然に接してくれる姿を目にし、小規模校ならではの学校教育目標に即した成果が得られていると思う。

1年～6年を通して「学校教育目標」に沿った授業が成されている。本年度はICT支援について重点を置き、熟議することができた。

また、「ふるさとを愛する子」を育てていくために、家庭や地域とのつながりをどう広げていくかを考えた。

いじめ防止の基本方針については、下阿多古小学校での現状を把握することができ、委員それぞれの考えを聞くことができた。

<評価項目2> 学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

ICTにおける授業の質の向上に向け、どのような支援ができるのかグループワークを行い、委員個々の考えを率直に聞くことができた。

タブレットを使用し、子供たちが普段行っている授業の一端を経験でき、今後の支援を考えるための参考になった。

「あゆっ子応援団」の応募用紙を作成したものの募集が滞っている現状に際し熟議したが、やはり、地域の方が集まるイベントにて、積極的な声掛けが必要であるとの結論となった。

下阿多古小学校の伝統として手がけている「米作り」への参加を呼びかけるための熟議をしてきた。地域の方々の興味のきっかけをつかめれば良いと思っている。

<評価項目3> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

3年目となる学校運営協議会は、地域として、経験を通じて生きる力を養える場を提供していくにはどうするかを考えていけば良いと思う。必要な人材を積極的に探していきたい。

少子化と共に人口減、高齢化が進み、今後の取組みをどう変化させていくかが課題となる。

下阿多古小伝統の「米作り」の地域の担い手が高齢となり、後継者育成やお手伝いのボランティア探しに、早急に対処していきたい。

来年度は「あゆっ米」の販売を実現するための支援を考えていきたい。

引き続き、学校と連携協働し、ICTの支援について熟議を進め、人材の確保に努めたい。学校側からの課題を提供していただくことで、協議会での熟議を深めていくことができると思う。

来年度も「あゆっ子応援団」の募集にも力を入れ、団員たちの活動の場を広げていきたい。